

MS&AD Report

立ちどまらない保険。

MS&AD MS&ADホールディングス

証券コード：8725

中間ご報告 2018年4月1日 ▶ 2018年9月30日

100年を超える経験と実績に学び、社会の変化から生じる社会的課題にいち早く対応して、次の100年も社会に貢献していきます。

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2018年度中間期（2018年4月1日から2018年9月30日まで）のご報告をお届け致します。

今年度も、国内外で自然災害による被害が相次ぎました。とりわけ日本国内で申し上げれば、大阪北部地震、7月豪雨、台風21号・24号、北海道胆振東部地震など、ニュースで自然災害が採り上げられない日はない状況でした。改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された数多くの皆さまには心よりお見舞いを申し上げます。一方で、被災者の皆さまの生活再建を助け、被災地域の復興を支援することは当社グループの使命と捉えており、グループを挙げて一日も早い保険金のお支払いに全力で取り組んでいます。

さて、中期経営計画「Vision 2021」初年度の2018年度は、こうした数々の自然災害の影響を受け、非常に厳しい事業環境となりました。しかしながら、支払保険金の一部は再保険金の回収が見込めることや、異常危険準備金を取り崩すことにより、通期業績への影響は限定的と考えています。また、コアとなる収益性は高い水準を保っており、「グループ総合力の発揮」、「デジタルライゼーションの推進」、「ポートフォリオ変革」を3つの重点戦略として、世界トップ水準の保険・金融グループの実現に向けた取り組みを着実に進めています。

2018年度中間配当金につきましては、前年同期に比べ、1株あたり5円増配し、70円とさせていただきますとともに、



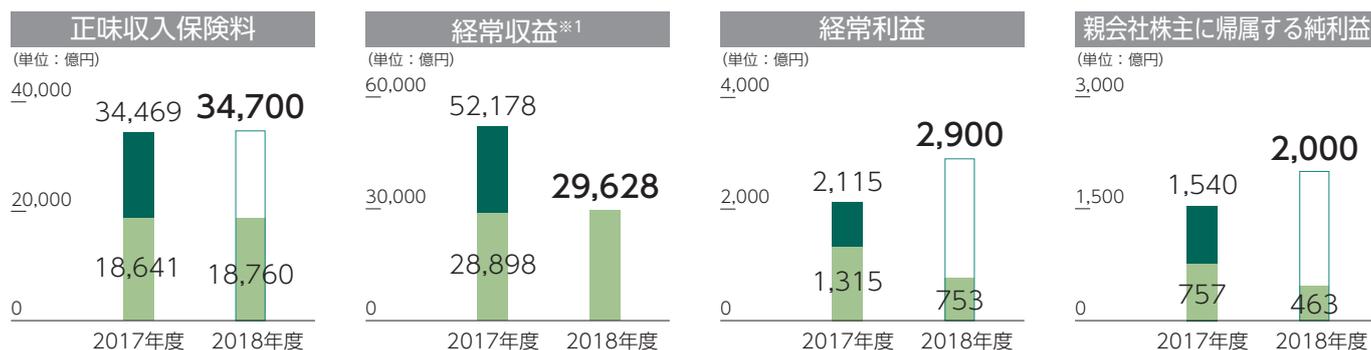
取締役社長
グループCEO

柄澤 康喜

2018年度末配当予想を1株あたり70円（年間140円）に変更致しました。

中期経営計画では、「レジリエントでサステナブルな社会」を目指すべき社会像と定め、深刻化する社会的課題と対峙し、保険会社の使命として、その解決に向けて取り組んでいます。気候変動への対応やレジリエントな街づくり、事故軽減につながるテレマティクス自動車保険や多面的なサイバーリスク評価によるサイバー保険など、多様化するリスクに対応する幅広い商品・サービスを通じて、お客さまとともに持続的成長と企業価値向上を追求してまいります。引き続き、グループの強みである「多様性」を活かし、持続的な成長を実現してまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

MS&ADホールディングスの状況（連結）



※1 経常収益については、業績予想を行っておりません。

(注) 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベースです。

事業毎の状況

国内損害保険子会社の三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の2社合計正味収入保険料は、自賠責保険の減収等により、前年同期比マイナス105億円の1兆4,012億円となりました。国内生命保険子会社については、三井住友海上あいおい生命の定期保険や医療保険の新商品、三井住友海上プライマリー生命の外貨建商品の販売の好調により、増収となりました。海外保険子会社は、今年度よりMS First Capital社が、新規連結となったことに加え、為

替影響もあり増収となりました。親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、国内損害保険子会社2社が自然災害の影響で715億円の減益となったことから、グループ連結は294億円減益の463億円となりました。年間の純利益予想は、国内損害保険の自然災害の保険金支払いの進捗にしたいがい、異常危険準備金の取崩を見込むことから、年初予想の2,000億円から変更はありません。

国内損害保険事業

正味収入保険料*1 (損保2社計)



2018年度中間期 会社別内訳

(単位：億円)	
三井住友海上 (単体) *1	7,774
あいおいニッセイ同和損保 (単体)	6,238
合計	14,012

国内生命保険事業

グロス収入保険料*2 (生保2社計)



2018年度中間期 会社別内訳

(単位：億円)	
三井住友海上あいおい生命 (単体)	2,474
三井住友海上プライマリー生命 (単体)	5,630
合計	8,105

海外事業

海外保険子会社の正味収入保険料



2018年度中間期 地域別内訳

(単位：億円)	
アジア	939
欧州 (うちMS Amlin)	3,362
米州	244
合計	4,546

2018年度中間期 事業別純利益*3

(単位：億円)

三井住友海上	606
あいおいニッセイ同和損保	△196
三井ダイレクト損保	8
三井住友海上あいおい生命	38
三井住友海上プライマリー生命	120
海外保険子会社	155
その他・連結調整等	△269
中間純利益	463

(注) 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベースです。

*1 全種目ベース

*2 保険料(グロス収入保険料)は、国内生命保険子会社のみです。

*3 連結の中間純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。子会社の中間純利益は、出資持分ベースです。

経営数値目標

(単位：億円)

	2018年度中間期	2018年度(年初予想)	2018年度(今回予想)
グループ修正利益	882	2,700	1,800
国内損保事業	480	2,070	1,160
国内生保事業	163	220	240
海外事業	211	370	350
金融サービス事業/ リスク関連サービス事業	26	40	50
グループ修正ROE	—	8.5%	5.6%
連結正味収入保険料	18,760	34,800	34,700
生命保険料(グロス収入保険料)	8,105	14,968	15,045
MSA生命EEV	8,809*	8,650	9,030
ESR(Economic Solvency Ratio)	212%	201%	—

* 第2四半期のEEVは、一部簡易な計算による試算値です。第三者機関の検証は受けておりません。

「Vision 2021」での計算方法

$$\text{グループ修正ROE} = \frac{\text{グループ修正利益}}{\text{修正純資産}}$$

$$\text{グループ修正利益} = \text{連結当期利益} + \text{異常危険準備金等}^{\#2} \text{ 繰入}^{\#3} \text{ 額} - \text{その他特殊要因(のれん・その他無形固定資産償却額等)} + \text{非連結グループ会社持分利益}$$

$$\text{修正純資産} = \text{連結純資産}^{\#1} + \text{異常危険準備金等}^{\#2} - \text{のれん・その他無形固定資産}$$

* 各調整額は税引き後、*1 除く非支配株主持分・新株予約権、*2 国内損害保険事業およびMSA生命の異常危険準備金・危険準備金・価格変動準備金、*3 戻入の場合は減算

TOPICS 「レジリエントでサステナブルな社会」の実現に向けて



MS&ADインシュアランスグループは、経営理念(ミッション)の実現に向け、保険・金融サービス事業を営んできました。中期経営計画「Vision 2021」においては、2030年に目指す社会像を「レジリエントでサステナブルな社会」としました。ステークホルダーから広く支持され、持続的に成長し続けるには、企業活動を通じてこれまで以上に社会との共通価値を創造し続けること(CSV: Creating Shared Value)が不可欠です。国連の持続可能な開発目標(SDGs)を道標として社会的課題に取り組み、「レジリエントでサステナブルな社会」の実現に貢献していきます。

相次ぐ自然災害への対応

今年の夏は、豪雨に台風、地震等、日本列島が多くの自然災害に見舞われました。三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保は、災害発生直後に対策本部を立ち上げ、お客さま対応要員を大幅に増員して、お客さまの被害状況の確認や損害に対する立合調査を迅速に進めています。「保険・金融サービス事業を通じて、安心・安全を提供する」というグループの使命を果たすべく、一日も早く保険金をお支払いすることを最優先課題として捉え、引き続きグループを挙げてお客さま対応に努めていきます。



リスクの発現を防ぐ取り組み

「水災・地震への備え提案運動」を展開



度重なる災害の発生に伴うお客さまの水災・地震補償への関心の高まりを受けて、「水災・地震への備え提案運動」を開始しました。この運動は、代理店からお客さまへ水災や地震のリスクを説明することで、お客さま自身にあらためて補償内容を再確認していただき、備えていただくことを目的としています。「リスクや補償に気付いていなかったから保険に加入せず、保険金を支払ってもらえなかった」というようなお客さまがいなくなるよう、取り組みを強化していきます。

「サステナビリティコンテスト」の開催

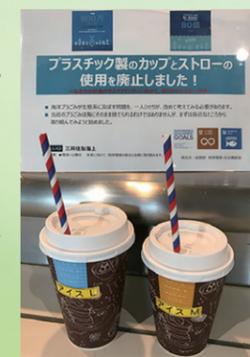
中期経営計画「Vision 2021」の実現に向け、社会との共通価値の創造(CSV)やSDGsの達成につながる活動をグループ内で共有する「MS&ADグループ サステナビリティコンテスト2018」を開催しました。最優秀賞は、営業成績を上げるための会議から、地域やお客さまの抱えている課題を一緒に見つけ、相談して解決しようという発想に転換する「空想会議」を発案した北海道支店の取り組みでした。「空想会議」では、たくさんのアイデアが生まれ、赤字経営に苦しむ病院のための高額な医療機器の保守コスト(修理費)の保険化、牧場経営の安定化を支える牛に対する傷害保険の開発が実現しました。コンテストを通じて新たな発想によるビジネスの創出を促すことが、当社グループの中長期的な企業価値向上につながります。取り組み事例を共有してさらに促進し、グループ一体となった取り組みを進めていきます。



「サステナビリティコンテスト」当日の様子

社員食堂でのプラ製品の廃止

MS&ADホールディングスと三井住友海上は社員食堂でのプラスチック製のストローと飲料カップの利用を廃止し、紙製のものに変更しました。プラスチックゴミによる海洋汚染問題が注目されており、社員が廃プラ問題を考えるきっかけにすることが目的です。食堂での扱いをやめることで社員が海洋汚染の問題を理解し、そのリスクをお客さまに説明したり、環境に負荷をかけない新素材を開発する企業を新規顧客として開拓することにもつながると考えています。



会社概要／株式の状況

会社概要 (2018年9月30日現在)

社名	MS&ADインシュアランスグループ ホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区新川二丁目27番2号
設立	平成20年(2008年)4月1日
資本金	1,000億円
従業員数	41,733名(連結)

株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行済株式の総数	593,291,754株	
株主数	63,676名	
所有者別株式分布状況		
外国人・外国法人	金融機関	個人・その他
19,763万株 (33.3%)	21,223万株 (35.8%)	6,372万株 (10.7%)
その他国内法人		証券会社
9,859万株 (16.6%)		2,109万株 (3.6%)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3か月以内に開催します。
配当の基準日	期末配当金：毎年3月31日 中間配当金：毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵送物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社および 三菱UFJ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告の方法により、下記ホームページに 掲載します。ただし、事故その他やむを得ない 事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。 https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/ notification.html

株式に関するお手続きについて

- お受け取りがお済みでない配当金を受け取るお手続き
三井住友信託銀行株式会社までお申し出ください。
なお、配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、当社定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。
- その他のお手続き
(1) 証券会社に口座をお持ちの場合：お取引先の証券会社へお申し出ください。
(2) 証券会社に口座をお持ちでない場合：特別口座での管理となっておりますので、三井住友信託銀行株式会社または三菱UFJ信託銀行株式会社へお申し出ください。

配当金を「配当金領収証」で受領されている株主さま

配当金を銀行等の預金口座へ入金する手続きをしていただきますと配当金支払開始日に株主さまご指定の口座に振り込まれ、迅速かつ安全・確実に配当金をお受け取りいただくことができます。

振込手続きをご希望の株主さまは上記「2.その他のお手続き」に記載の証券会社または信託銀行へお申し出ください。

お問い合わせ先

三井住友信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

三菱UFJ信託銀行株式会社
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番地の1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711

統合報告書のご案内

MSAD 統合報告 検索



MS&AD統合レポートでは、当社グループの中長期的な価値創造についてご理解を深めていただくために、長期的な方向性、中期的な戦略、これらの企業価値を支える仕組みなどについてご説明しています。



立ちどまらない保険。

MS&AD MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

